

## 高品質オオバ生産のための栽培方法

[要約] オオバの栽培における栽植密度は 20cm×20cm の 1 本植え、または 30cm×30cm の 2 本植えが適している。マルチ栽培では夏季はシルバー、冬季は黒マルチを利用する。土壌水分は pF1.7 程度の湿潤な状態に保つ管理が、収量・品質の向上につながる。

農業総合センター園芸研究所

成果区分

普及（普及）

### 1. 背景・ねらい

本県のオオバ産地では、先進県との交流等もきっかけになって、高品質生産のための栽培方法に関心が高まってきている。しかし、先進地とは栽培条件も異なるため、直ちに適用できる技術は限られている。

そこで、本県のオオバの高品質安定生産技術を確立する上で最も重要と考えられる栽植密度、マルチ栽培法および水分管理技術について検討した。

### 2. 成果の内容・特徴

1) 栽植本数が多いほど収量は多くなるが、増収効果以上に作業性の悪化が負担になることから、栽植密度は株間 20cm×条間 20cm の 1 本植え、または 30cm×30cm の 2 本植えが適当である。

栽植間隔が広いほど葉色、形状が優れるが、香りや食味には差がない。また、栽植間隔が広いほど草丈が高くなり、側枝の発生も多くなる(表 1)。

2) 普通作型ではシルバーマルチ、抑制電照作型では黒マルチを用いることで、無マルチより収量が多くなる。

マルチ栽培では土壌水分が保たれるため、葉の小鋸歯の発生が無マルチ栽培より増加する。葉色、葉の形状には大きな差は認められない。

作型に関わらずマルチ栽培では無マルチ栽培より生育が促進され、草丈、節数、有効茎数が増加する(表 2, 3)。

3) pF1.7～2.4 の範囲では土壌が湿潤であるほど、草丈が高く側枝数も増加するなど生育が旺盛で、収量が多くなる。

栽培期間を通して、土壌を湿潤な状態で維持すると小鋸歯の発生が増加する。また、柔らかさも適当であるが、pF2.4 以上では葉が硬くなり、品質が低下する(表 4)。

### 3. 成果の活用面・留意点

1) マルチの一般的な効果として、病害予防になる灌水による土の跳ね上がり防止やハウス内湿度の低下がある。

2) 土壌水分が多いほど葉色が淡くなる傾向があるので、採光や施肥管理にも注意する。

#### 4. 具体的データ

表1 栽植密度と生育、収量、品質

作 型	栽植距離・本数 (cm-本)	栽植密度 (本/a)	収穫枚数 (千枚/a)	葉色 1)	形状 2)	草丈 (cm)	側枝数 (本/株)
普 通	20×20-3	4,284	563	26.5	△~○	111	9.5
	30×30-2	1,428	404	27.9	○	119	26.4
	30×30-3	2,142	422	27.9	○	113	15.5
抑制電照	20×20-1	1,428	486	28.8	—	95	31.0
	20×20-2	2,856	619	28.0	—	88	19.8
	20×20-3	4,284	580	26.1	—	74	10.6
	30×30-2	1,428	456	28.5	—	92	31.6
	30×30-3	2,142	520	27.9	—	87	19.5

注1) 葉色：ミルバ製葉緑素計SPAD502の測定値。葉上部，中部，下部の平均

2) 形状：○-よい △-普通

表2 普通作型におけるマルチの種類と生育、収量、品質

マルチの種類	収穫葉数 (千枚/a)	小鋸歯の発生程度 1)	草丈 (cm)	茎径 (mm)	有効茎数 (本) 2)
黒マルチ	513	1.8	141	7.8	10.2
シルバーマルチ	501	1.7	142	8.0	11.8
無マルチ	441	1.3	137	7.6	7.7

注1) 小鋸歯の発生程度：3 (多い) ←→ 0 (発生なし)

2) 有効茎数：出荷可能な葉を着生した茎の数

表3 作型・マルチの種類と生育、収量 (現地試験)

作 型	マルチの種類	草丈 (cm)	節数 (節)	節間長 (cm)	分枝数 (本)	葉色 (SPAD 値)
普 通	白 黒	65	16.1	4.0	14.3	30.2
	銀 黒	65	15.4	4.2	12.5	33.3
	無マルチ	60	14.4	4.2	9.9	31.4
抑制電照	銀 黒	43	11.1	3.9	12.3	25.2
	黒	44	11.6	3.8	12.2	24.7
	グリーン	42	11.5	3.7	12.9	25.2
	無マルチ	36	10.0	3.6	11.8	25.8

表4 土壌水分と生育、収量、品質

土壌水分 pH値	収穫葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)	小鋸歯の発生程度	葉の硬さ	草丈 (cm)	側枝数 (本/株)
1.7	113	32.1	全てあり	適正	37	8.1
2.2	77	33.8	あり・なし混る	適正	35	6.6
2.4	65	34.5	ほとんどなし	やや硬い	34	6.3

#### 5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

高品質オオバ生産のための優良系統の選抜および栽培技術の確立  
2001~2004年度・野菜研究室